

第三のみち

人は脱皮し続ける

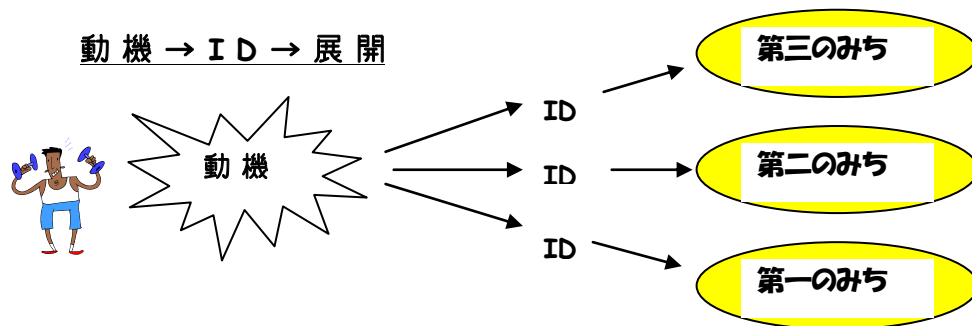
永田 円了

脱皮とは如何なるものなのだろうか。昆虫、爬虫類は、脱皮することで成虫になっていく。また、脱皮しないと古い表皮に中で死を迎える。この生物界は、生きていくためには否応なしに脱皮（＝変化）を強いられているのである。

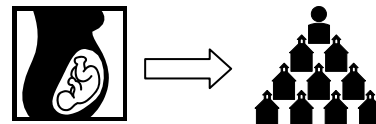
ところが人間はどうか。母親の胎内で十月十日、そして外界へでる（第一の脱皮）。しかし、その後もずっと親に守られて育っていく。ではある年数がたてば自動的に、昆虫の脱皮のような機会が訪れるのだろうか。悲しいかな、人間の場合は、自分の意志で脱皮の機会を得る以外にその術を知らない。この意味では、人間は過酷なまでに自由が与えられているのである。

人は脱皮しなくても生きていける。しかしそれは下手をすれば、「引きこもり」や「ニート」となって現存することとなる。では人間にとって脱皮し続けるためには何が必要なのか。

意識を無意識から引き上げることである。外界よりも内界を大切にすることである。いま、この瞬間、わたしの心は平和だろうか。いま、この瞬間、わたしの内面で何が起きているのだろうか、と問うてみることである。内界のど真ん中に鎮座する“いのち”の存在と繋がったとき、人は外界でのシーソーゲームをやめる。



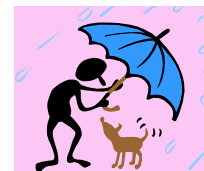
- ① **第一のみち**：集団意識 (T. I)
守られている、与えられるのを待つ、
がまん、がまん、がまん…、退職したら、が口癖



- ② **第二のみち**：個人意識 (P. I)
外に出る、私たちが私に、マイウエイ、
個人の才能が花開く、自己中心のライフスタイル



- ③ **第三のみち**：象徴意識 (Aha!)
意味を問う、他者との関係、人を支援、
コーチャビリティを高めて出かけて行く、



事例

海ガラスの巣立ち（人間以外の生物は甘やかされない）
ある信用金庫の事例、カドがない、顔がない、癖もない
組織を飛び出し、タイへ行く幸峰さん（第一のみち→第二のみちへ）
ブッシュ大統領、日本の国会で演説『競争』2002年
ホイットニー・ヒューストンさん、享年48歳、第二のみちで燃え尽きる
美輪明宏、三島由紀夫を語る 第一のみちから第二のみちへ
財前教授の総回診（『白い巨塔』より）（第一、第二のみち、ピラミッド型組織）
安田泰敏、囲碁9段、もう一つの顔
ビクター・フランクル語る、『夜と霧』内界の自由
歌・エルビス・プレスリー An American Trilogy

